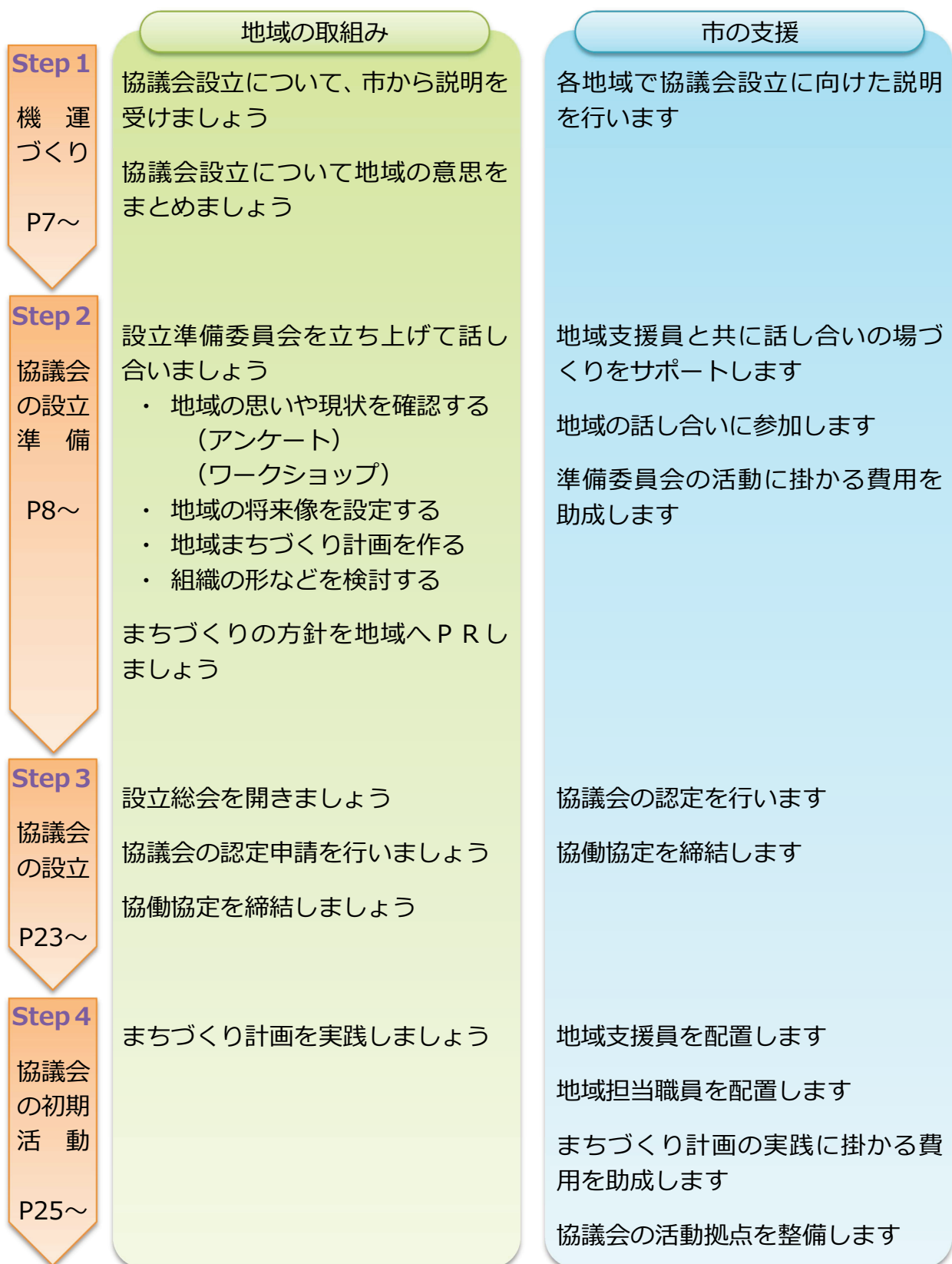


2 地域コミュニティ協議会設立の流れ

地域コミュニティ協議会を設立するまでの、標準的な流れは次のとおりです。



ステップ1 地域の機運を高めましょう

地域コミュニティ協議会は、一部の方がその必要性を理解するだけで設立できるものではありません。地域全体で「設立しなければ」という機運を作ることがとても大切です。

① 協議会の設立について、説明を受けましょう

説明会では、地域コミュニティ協議会の取組みの必要性、協議会設立により期待できる効果、協議会設立に向けてどのような活動が必要かなど、地域の状況に合わせて説明します。

各種地域団体の役員、会員のほか、多くの人に参加できるように、校区公民館総会と一緒に開催するなど、日時や場所を工夫し、いろいろな方法で参加を呼びかけましょう。



通山地区での説明会の様子

② 協議会設立について地域の意思をまとめましょう

協議会の設立についての説明を受け、地域の現状や課題と感ずる点、それぞれの地域団体の活動状況、地域コミュニティ協議会の取組みの可能性などについて話し合い、協議会の設立に向けて活動を進めていく方向性を地域内でまとめましょう。

ステップ2 準備委員会を立ち上げて話し合いましょう

協議会設立に向けて、地域内の意思統一が図られましたら、「協議会設立準備委員会」を立ち上げて、具体的な話し合いを進めていきます。

① 準備委員会を立ち上げましょう

準備委員会では、地域の現状を分析したり、地域に必要な活動内容を考えたり、地域にふさわしい組織の形や決まり事などを検討したりします。そのため、地域内で活動されている様々な団体・企業、住民の代表者や女性、若者など、できるだけ幅広い立場で、自由に意見を出し合えるようなメンバーを選びましょう。

【市内で設立された準備委員会の構成メンバーの一例】

- ・ 校区公民館
- ・ 自治会
- ・ 幼保、小、中 P T A
- ・ 消防分団
- ・ 民生委員
- ・ 地元企業
- ・ ふるさとづくり委員会
- ・ 校区（地区）社協
- ・ 幼保、小学校、中学校
- ・ 駐在所
- ・ 老人クラブ
- ・ 子育て世代、若年層 など

準備委員会の人数の目安は、地域によって様々ですが、概ね15人から30人程度が一般的です。話し合いの場所は、校区公民館の活動拠点などを使用します。

準備委員会の活動経費については、次のとおり志布志市も支援をしています。

協議会化支援事業補助金

地域コミュニティ協議会の組織化を図ることを目的に設立された、準備委員会等の組織に対し、組織化に係る話し合い活動や事務用品などの経費を助成します。

助成額は、組織化を図る区域内的の世帯数に応じ、500世帯未満は15万円まで、500世帯から1,000世帯未満は20万円まで、1,000世帯以上は25万円までとします。

2月末までに実績を報告していただく必要があります。

準備委員会の役割は、大きく分けると次の3点になります。

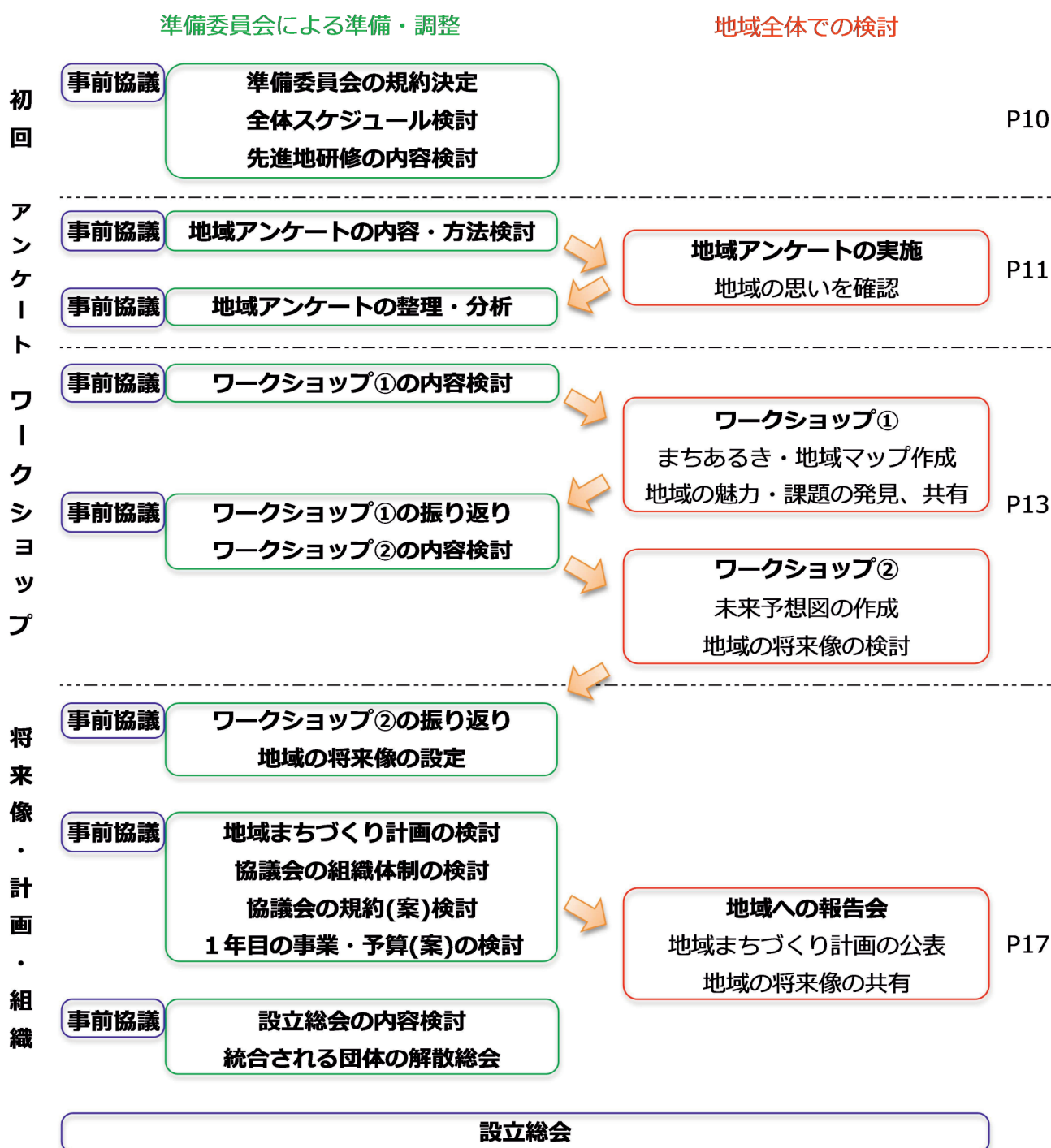
- ・ 地域のことを話し合う場をつくる
- ・ 地域の将来像を描く
- ・ 地域コミュニティ協議会設立の準備をする

② 準備委員会の主な活動内容

地域コミュニティ協議会を設立するには、地域内の意識を盛り上げながら進めていく必要があります。そのためには、地域の皆さんの多くの意見を集める話し合いの場（ワークショップ）を開くとともに、出された意見を整理したり方向性を決定したりするための準備委員会が必要になってきます。

準備委員会を開催する前には、準備委員会の中でも中心となる方々（幹事会）による事前協議により、諮るべき議題等を整理、検討した方が、話し合いがスムーズに進みます。

【準備委員会の標準的な活動例】



● 準備委員会の規約を定めましょう

準備委員会を運営していくための指針となるものです。

志布志市では、地域コミュニティ協議会の設立のため、準備委員会による話し合い活動に対して、地域コミュニティ協議会化支援事業（8ページ参照）により支援していますが、この補助金を受け取るためには、準備委員会の規約や役員名簿などをそろえて、準備委員会名義で金融機関に口座を開設する必要があります。

● 準備委員会の役員を決めましょう

準備委員会は、概ね委員長、副委員長、会計の3人の役員を置きます。役員の任期は、地域コミュニティ協議会が設立されるまでとなります。



新橋地区での初回の準備委員会の様子

● 全体スケジュールを決めましょう

地域コミュニティ協議会の設立に向けて9ページを参考に、「何を」「いつごろ」実施するか、準備委員会の年間活動スケジュールを決定します。

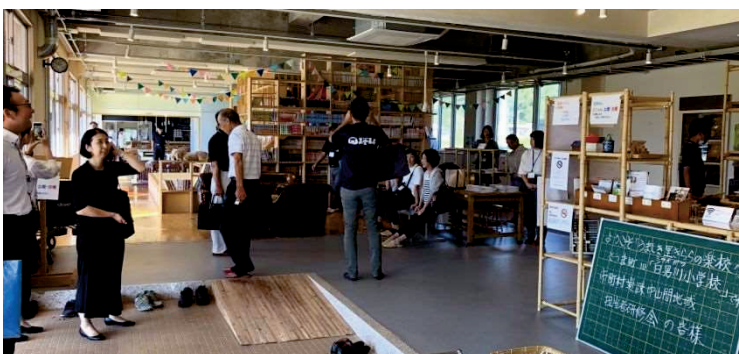
既に組織が立ち上がった地域では、「毎月第2月曜日午後7時から校区公民館で」のように、定例的に話し合いを持っていました。

● 先進地研修について検討しましょう

地域コミュニティ協議会の先進地の様子を見聞きすることで、準備委員や地域の皆様の理解度が大きく進みます。

志布志市では、参考になるような先進地の情報を持っていますので、地域コミュニティ協議会化支援事業などを活用し、自分たちの地域と同じような状況、同じ課題を抱えている地域に研修に行くことを検討しましょう。

研修先や日程、参加者などが決まりましたら、研修先と調整をします。



潤ヶ野地区での先進地研修の様子
(廃校を宿泊施設として活用した
さつま町きららの楽校)

準備委員会 地域の想いを確認するアンケート

地域づくりには、地域住民、地域団体、学校、企業など多くの地域の意見を反映させることが大切です。ワークショップや準備委員会など、1か所に集まって話し合う場を作っても参加できない人がいます。地域の皆様のタイミングで、自由に意見を言える方法としては、アンケートが有効です。その意見が、地域の中でどのくらいの割合の意見なのか、数量化して分析することができるのもアンケートの特徴です。

準備委員会の活動として、地域の課題を洗い出し、解決のための取り組みをまとめた「地域まちづくり計画」を策定しますが、アンケート結果は地域の皆様の率直な意見となりますので、計画の策定に向けて、なるべく早い時期に取組みましょう。

● アンケート用紙の作成

アンケートの目的は、多くの地域の意見を集め、地域全体の意向を把握することです。そのために、偏った回答を導くことがないように、設問を十分吟味しましょう。また、地域コミュニティ協議会の設立に向けた取り組みの経過を知らない人でも答えられるように、できるだけ身近に感じられる内容にすることも大切です。

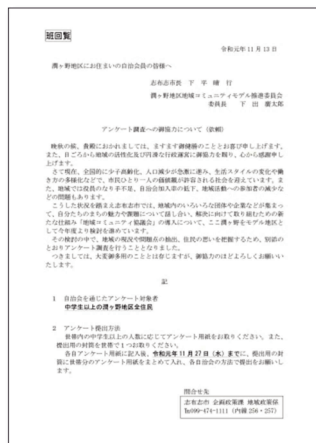
質問をつくるときは、得られた回答をどのように活用するのか、だれ（年齢）を対象に調査するのか予め考えておく必要があります。思いを聞くのか、状況を聞くのかを明確にし、個人情報への配慮も必要です。

【設問の例】

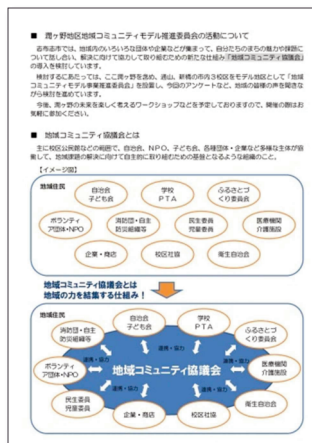
- ・ 地域活動に関心がありますか？（その理由は？）
- ・ 今後もこの地域に住み続けたいと思いますか？
- ・ 地域での暮らし、地域活動などに何かご意見はありませんか？

● アンケートの配布、回収

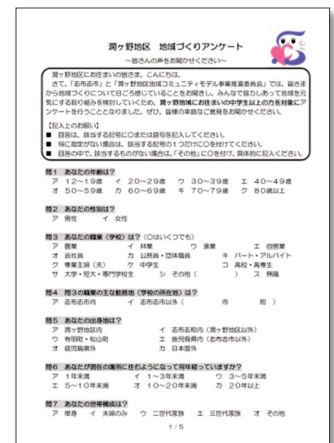
アンケートの配布や回収は大変な作業です。準備委員会の皆様で作業を分担して実施しましょう。アンケート用紙だけでなく、依頼文書、準備委員会の説明などを加えると、興味を持っていただけるかもしれません。



依頼文書(回答方法、期限等)



取組みの紹介



アンケート用紙

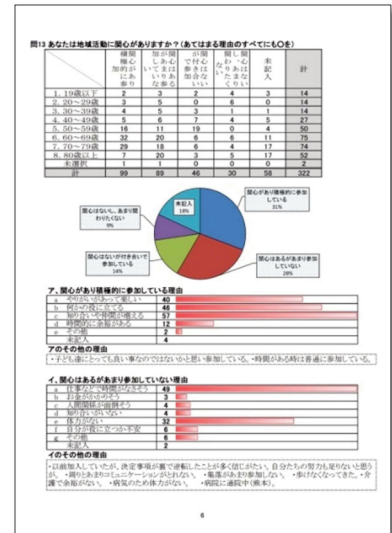
さらに、回収率を高めるためには、可能な限り人の手で届け、誰が、どこに、どのように届け、回収するか工夫が必要です。

地域内でアンケートを実施していることを色々な手段を使って伝えましょう。郵送やインターネット回答の活用も検討できるかもしれません。

● アンケートの入力、集計、分析、まとめ

回収したアンケートには、設問にない緊急を要する意見や貴重な意見が記入されていることもあります。

できるだけ早く集約し、割合など数字は正確に、記述意見は分類した上で、地域の皆様に還元しましょう。アンケート結果を大切に扱うことで、地域の皆様同士の信頼づくりにつながります。



アンケート集計結果(例)

● アンケートを補完するインタビュー調査

アンケートに馴染まない地域団体や地元企業、日常の関係性の中で対話によるほうが多くの意見を聞くことができる自治会長など、インタビュー調査が有効なケースもあります。

アンケート、インタビューそれぞれの特徴を組み合わせ、多くの地域の意見を集めましょう。

準備委員会 地域の想いを形にするワークショップ

「地域まちづくり計画」を策定するために、多くの地域の皆様の意見を反映させる手法のひとつとしてワークショップがあります。ワークショップは「参加型、体験型の話し合い活動」とも呼ばれます。地域の皆様が、立場や年齢にかかわらず自由に発言し、楽しく意見をまとめ、参加者全員で共有する方法としては、ワークショップが有効です。

ワークショップには規模や手法など様々な形があり、地域の現状に合わせて何回でも開くことができます。また、ワークショップの取組みの中で、次の世代の地域の担い手を育成したり、見つけたりすることも可能です。

ワークショップの実施例（K J法）

K J法では、ひとつの議題に対して参加者が先入観なく遠慮なくアイデアを出し合い、出された意見を手際よく整理していくことができます。

- ① ごく簡単に自己紹介し、進行役、記録役、発表役を決めます
- ② 議題を示し、各自ふせん紙に意見を記入する時間を取ります。ふせん紙1枚にひとつの意見を簡潔に、太字のペンで記入します
- ③ 時間が来たら、参加者が順番に模造紙にふせん紙を貼り、意見を紹介します
- ④ 同じような意見をふせん紙に書いていた人は、その近くに貼ります
- ⑤ ③～④を繰り返します
- ⑥ 全員が意見を出し終わったら、似通った意見を模造紙の上で寄せ集め、太字のペンでくくって、そのグループを表す「小見出し」を付けます



活発なワークショップにするために、概ね5人～10人の島状のテーブルに班分けしましょう。また、進め方にルールを設け、全員の意見が出せるように工夫しましょう。

【ルールの例】

- ・ 発言は簡潔明瞭に
- ・ 人の意見を否定しない
- ・ 発言回数は平等に
- ・ 人の意見は最後まで聴く
- ・ 考えがまとまっていない時はパスもOK

準備委員会の活動としては、大きく分けて次のような2回のワークショップに取り組みましょう。

- 1回目 地域の現状を知る（まちあるき、地域の魅力や課題について話し合う）
- 2回目 地域の未来予想図をつくる（魅力を活かし課題をどのように解決するか）

● ワークショップの参加者を募りましょう

大切なのは、ワークショップを通して地域に対する多くの意見や様々な視点の意見を集めることです。そのためには、より多くの参加者を募り、いろいろな立場の方に参加してもらうことが必要になります。次のような点に配慮しながら参加者を募集してみましょう。

- ・誰でも参加しやすい開催日時の設定（平日夜間より休日の日中など）
- ・誰でも参加しやすいテーマ設定（まちあるき、未来トークなど）
- ・多くの手段で広報する（チラシ、行政告知、ポスター、学校や企業に案内）
- ・多くの立場の方に呼びかける（児童・生徒、企業の従業員、若者、女性など）
- ・誰でも発言できる楽しい雰囲気づくり（次回も参加したくなる雰囲気）
- ・直接声をかける（このテーマなら〇〇さんが、など）



新橋地区で計画された「まちあるき」のチラシ



通山地区で各ごみステーションに貼られた案内チラシ



通山地区で児童施設に貼られた案内チラシ

● 地域の現状を知る まちあるき&ワークショップ①

地域の魅力（景観が良い所、他に誇れる所）や課題（危ない所、管理が不十分な所）などの現状については、知っているようで意外と知らないことが多くあります。また、子どもの視点、女性の視点、高齢者の視点で見え方や捉え方が変わります。

これらを実際に歩いて見て回り、分類したり掘り下げたりと議論を深め、整理して、地域の共通の現状認識としてまとめましょう。

【まちあるき&ワークショップの実施例】

ア 地域内で歩いて回れるルートをいくつか考えます。地域に詳しい方にアドバイスをもらいながら、自然、史跡、施設、企業、農地など、地域を表すような場所を歩いて回れるように設定します。



イ ルートごとに班分けをします。そのルートについて詳しく説明できる方を数人確保し、残りの方は、そのルートをあまり知らない方が新たな発見があるかもしれません。

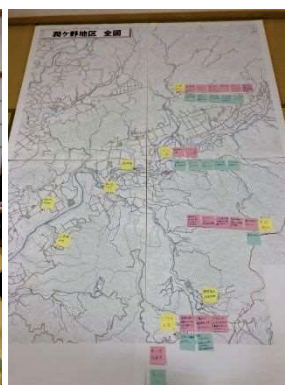
ウ 地図を持ち、ルートごとに歩いて探検します。気付いた点や面白い物を見つけたら写真を撮り、地図にメモを書き込んでいきます。



通山地区での「まちあるき」の様子

エ 探検が終わったら、ルートごとの大きな地図に、気付いた点や写真を足しながら「地域マップ」を完成させていきます。

オ ルート別に発表し、地域の魅力や課題について参加者間で共有します。



潤ヶ野地区でのまちあるき後の「ワークショップ」の様子

● 地域の未来予想図をつくる ワークショップ②

地域の現状を知った上で、自分たちの地域がどのようになったらいいか、地域の未来予想図をまとめましょう。

そして、未来予想図の実現に向け、地域の魅力を活かし、課題を解決したりするためにどのような方法があるか、どのような活動が必要か、地域で何ができるかを整理して、地域の共通の目標としてまとめましょう。

まとめられた意見は、地域の想いとして、地域コミュニティ協議会の活動の基礎となる「地域まちづくり計画」に反映させていきましょう。

【未来予想図をつくるワークショップの実施例】

ア 班ごとに分かれ、まちあるきで作成した地域マップなどを参考に、今後活かしていきたい地域の「魅力」、改善していきたい地域の「課題」をいくつか選びます。

イ 「魅力」については、どのような活用が考えられるか、活用するために地域で何ができるか、「課題」については、どのような解決方法があるか、解決のために地域で何ができるか意見を出し合い、まとめていきます。

ウ 「魅力」の活用と「課題」の解消によって、3年後の地域がどうなっているか、未来予想をしてみましょう。

エ 班ごとに発表し、地域の未来予想について参加者間で共有します。



通山地区での「未来予想図を作るワークショップ」の様子

準備委員会 地域の将来像の設定

設立準備委員会により実施されてきた、アンケート・ヒアリング調査、まちあるき、ワークショップなどにより見えてきた、地域住民の「こんな地域にしたい！」という想いを将来像として定めましょう。

さらに、その将来像を実現させるために、テーマ（分野）ごとに具体的な目標（行動原則）を設定しましょう。

また、組織設立にあたっては、この将来像を設立趣意書や協議会の規約に含め、地域で共有しましょう。

準備委員会 地域まちづくり計画の策定

「地域まちづくり計画」は、地域の将来像実現のための活動を計画的・効果的に実行していくために、取組みの優先順位や実施時期、地域内の役割分担などを明らかにする、地域コミュニティ協議会の中長期的な実行計画になります。

この計画は、アンケート・ヒアリング調査、まちあるき、ワークショップなどで見えてきた地域住民の「こんなことをしたい！」という想いを盛り込むことはもちろん、地域団体や行政と役割分担して取組む活動についても話しあい、盛り込むことが必要です。

また、計画の作成自体も地域づくりの一環と考えて、進捗状況は地域の皆様に周知しながら地域コミュニティ協議会の設立に向けて気運を高めていきましょう。

地域まちづくり計画は、適宜評価と改善を行いながら、3年ごとに計画を見直していきます。

● 地域まちづくり計画の例

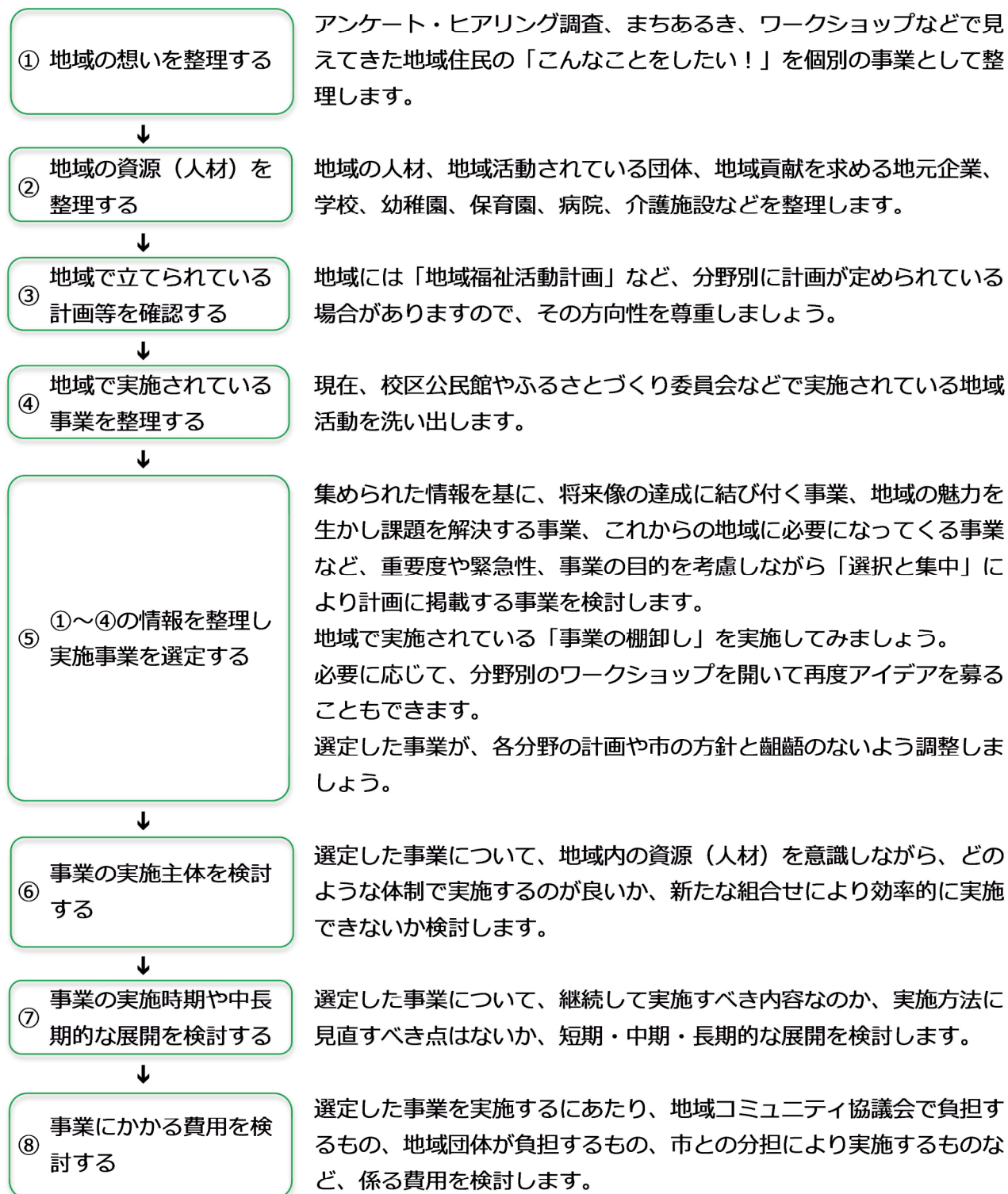
ここを テーマ	こうしたい テーマ目標	その ために	だれが 主体	どういうやり方で 事業名 内容	実施 月	いつまでにどうする 実施時期				その結果 事業目標
						初期		中期	長期	
						1年目	2～3年目	4～6年目	7～10年目	
子ども	●●が好き、●●に戻ってきたと思える地域づくり	子ども部 ●●小学校・PTA ■中学校・PTA	★★まつり事業	●●地区に古くから伝わる、子どもの健やかな成長を願う伝統行事として、★★まつりを運営する	8					異年齢活動を充実させる子どもの活躍の場をつくる
地域づくり	人であふれる●●地域	ふるさとづくり部 ▲▲▲▲▲▲ NPO◆◆ 企画政策課	●●キャンプ場事業	廃校となっている◆◆中学校をキャンプ場として改修し、地域住民からなるNPO法人を設立して運営する。	通年					地域の魅力を増やし、交流人口を増やす地元雇用の増
健康										
安全 安心 福祉										

●●コミュニティ協議会
第1期 ●●地区まちづくり計画

R3.3.1 第1期策定	人口 (年少)	528人	5.7%	世帯数	294	世帯自治会	12
R4.2.10 一部改訂	(生産)	45.3%	加入率	81.3%			
R6.3.31 一部改訂	(高齢)	49.1%					(R2.9.1現在)

● 地域まちづくり計画の作成手順例

計画の形式的な要件を整えるだけでなく、「地域コミュニティ協議会を作る目的は何なのか、どんな活動をするのか」を、準備委員会を中心に住民や地域の各団体が時間をかけて話しあい、しっかりと共有しておくことが重要です。



準備委員会 組織体制、規約、予算などの検討

「地域まちづくり計画」を効率的に実行していくために、地域コミュニティ協議会の組織の形、規約の整備、1年目の事業計画、予算の作成などを進めていきます。準備委員会でそれぞれの案を作成し、設立総会に諮り承認を得ましょう。

● 組織の形

地域の全住民、校区公民館、自治会、ふるさとづくり委員会、NPO法人、PTA等の各種団体、地域住民、学校、民間企業など、区域内で活動中の多様な主体に参画と連携を促しながら、組織していきます。

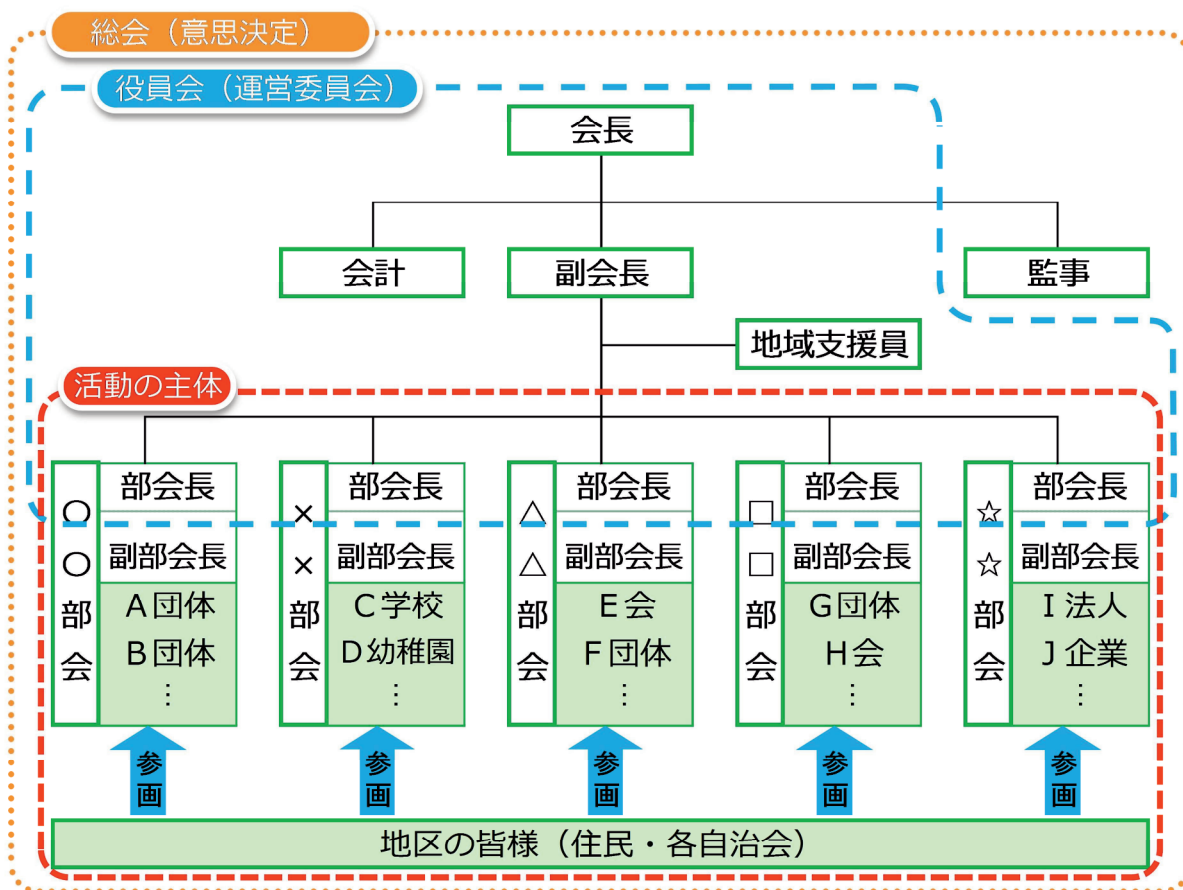
組織の姿は「地域まちづくり計画」を実行していくために、地域の現状に適した形を検討します。組織化に当たっては、透明で民主的な意思決定を行える仕組みと、課題解決に向け迅速に活動する仕組みの両立が重要になります。

協議会の活動テーマは多岐にわたりますので、効率的な運営のために志布志市では「部会」を設置することを推奨しています。部会制は、福祉、子育て、環境、防災など活動テーマ（分野）ごとに設置し、それぞれの部会の活動に各自治会や各地域団体などが参画する形です。

各部に参画する地域団体等が、それぞれの特徴を活かしつつ、相互に補完しながら活動できる体制を目指しましょう。

【組織図・運営体制の例】

(29 ページ参照)



各部会は、それぞれの活動テーマに係る事業を中心的に実施していきますが、各部会に一定の裁量、責任、予算を持たせて実施することで、一部の役員への負担の集中がなくなったり、新たな担い手の発見につながったりする可能性があります。

また、地域内にはPTAや消防団など様々な活動をされている組織があります。また、青年団や婦人会など以前はあったが今はなくなってしまった組織もあります。これらの組織の活動内容や課題などを洗い出し、地域コミュニティ協議会の中でどのように「協働」していくことができるか、「組織の棚卸し」作業を行うことが有効です。

● 組織の名称の決定

志布志市では、各地域で設立される地域コミュニティ協議会の名称を「活動区域を表す言葉」＋「活動内容を表す言葉」＋「協議会」としています。

地域住民にとって親しみやすい名称にしましょう。名称を決めるにあたっては、住民から募集することも可能です。

【市内で設立される組織の名称例】

- ・潤ヶ野校区コミュニティ協議会（潤ヶ野校区＋コミュニティ＋協議会）
- ・通山校区コミュニティ協議会（通山校区＋コミュニティ＋協議会）
- ・新橋地区コミュニティ協議会（新橋地区＋コミュニティ＋協議会）

● 規約

地域コミュニティ協議会の目的、目指す将来像、十分な話し合いによる意思決定の仕組み、組織体制、活動内容などを明らかにするために必要不可欠です。

これまで活動されていた校区公民館、ふるさとづくり委員会などの規約や、志布志市のひな型を基に、地域の実情に合わせて作成しましょう。（31 ページ参照）

● 役員の選出

役員の選出については、これまでのワークショップや準備委員会の活動を通じてかかわりが生まれた若い世代や女性にも積極的に声をかけ、次の世代の地域の担い手として登用しましょう。

また、すべての役員が短期間で一度に交替することにならないよう、配慮しましょう。

● 1年目の事業計画と予算

「地域まちづくり計画」の中から、1年目に係る事業を抜き出して、初年度の事業計画を作成していきます。また、その事業実施に掛かる予算も検討します。

計画した事業を実施するための経費、組織運営に必要な経費を予算書として整理していきます。

地域コミュニティ協議会について理解、共感、信頼してもらい、更には地域コミ

ユニティ協議会の活動に参加・参画・支援してもらうために、会費、寄附金、志布志市の交付金、補助金など、地域コミュニティ協議会の収入となる資金を提供した方々にだけでなく、活動のサービスを受ける地域の方々に対して、協議会の予算をどのように使うのか、分かりやすい表現にしましょう。

【予算書の例】

〇〇コミュニティ協議会 令和3年度収支予算書（例）

1 収入の部

区分	当初予算額	摘要
1 繰入金	50,000	
2 会費	750,000	正会員00人×0,000円= 500,000円 準会員00人×0,000円= 250,000円
3 補助金等	1,000,000	校区公民館+ふるさとづくり委員会分 800,000円 (新)コミュニティ協議会創成支援補助金 200,000円
4 寄付金等	20,000	
5 雑収入	5	利息 5円
合計	1,820,005	

2 支出の部

区分	当初予算額	摘要
1 会議費	50,000	総会、定例会、役員会
2 諸手当	350,000	会長000,000円 副会長00,000円×3人 会計00,000円 部会長00,000円×5人
3 会長活動費	100,000	
4 事務費	50,000	消耗品00,000円 通信料00,000円
5 負担金	71,000	市公連負担金
6 研修費	140,000	先進地研修000,000円 生涯学習講座0,000円×00人
7 事業費	1,000,000	
(1) 〇〇部	200,000	〇〇事業 00,000円 〇〇事業 00,000円
(2) ××部	200,000	××事業 00,000円 ××事業 00,000円
(3) △△部	200,000	△△事業 00,000円 △△事業 00,000円
(4) □□部	200,000	□□事業 00,000円 □□事業 00,000円
(5) ☆☆部	200,000	☆☆事業 00,000円 ☆☆事業 00,000円
8 団体育成費	40,000	〇〇保存会
9 慶弔費	10,000	
10 予備費	9,005	
合計	1,820,005	

地域づくりで大切なのは地域の皆様の関心、参加、コミュニケーションです。取組みを知ってもらわなければ、何も始まりません。

活動や話し合いなどに参加しないことが「関心が低い」「関心が無い」とは限りません。タイミングが合えば参加する人、興味のある活動を目にすれば関心の高まる人もいますので、参加できなかった人と活動や取組みの経過を共有しましょう。

特に、完成した「地域まちづくり計画」については、自分たちの地域の10年間の方針になりますので、地域の広報誌発行、行政告知放送、ホームページやSNSなど、色々な手段を使って情報発信しましょう。

● 報告会

設立準備委員会での話し合いやアンケートによって出された地域の皆様の想いは、設立準備委員会で整理、集約され、「地域まちづくり計画」としてまとめられています。

地域の皆様を対象に報告会を開いて、それぞれの意見が取り込まれているか確認し、地域づくりの方向性を共有しましょう。



潤ヶ野地区での「報告会」の様子

● 広報誌の発行

設立準備委員会での協議内容や活動内容は、随時「地域コミュニティだより」などを発行し、地域住民のみなさんにお知らせすることで、地域での情報共有とまちづくり意識の高揚につながります。

設立準備委員会の事務局で広報を担当し、協議会化支援事業補助金を活用して広報誌を印刷し、自治会への全戸配布や地域内の店舗に置くなどしましょう。設立準備委員会単独での作成以外にも、公民館だよりなどの紙面を借りてお知らせすることもできます。

ステップ3 協議会を立ち上げましょう

地域コミュニティ協議会としてスタートするために「設立総会」を開催し、組織の運営を始めます。また、地域コミュニティ協議会と志布志市との「協働による地域づくり」の開始を地域の皆様や市内全域に知っていただくため、協定を締結しましょう。

● 設立総会

地域コミュニティ協議会としてスタートするために「設立総会」を開催し、設立趣旨の承認、規約の制定、役員を選出、地域まちづくり計画、事業計画、予算などの審議を行い、組織の運営をスタートさせます。

地域コミュニティ協議会の一部の人の組織ではなく、地域の皆様が自由に参画できるものでなければなりません。設立総会もそのことを十分意識して開催しましょう。総会に先立ち、何か記念に残るようなセレモニーを実施してもいいかもしれません。

設立総会の進行例

- 1 準備委員会会長あいさつ
- 2 祝辞
- 3 議長、議事署名人の選出
- 4 協議
 - (1) 設立趣旨
 - (2) 地域コミュニティ協議会規約（案）について
 - (3) 協議会役員選出について
 - (4) 会長あいさつ
 - (5) 地域まちづくり計画（案）について
 - (6) 令和〇年度事業計画（案）について
 - (7) 令和〇年度予算（案）について

● 地域コミュニティ協議会の認定

地域コミュニティ協議会は、設立総会で地域の皆様に設立の承認を受けることで活動を開始できます。

さらに、志布志市の認定を受けて、地域課題の解決に向けて志布志市との協働事業を開始し、活動経費などの助成を受けましょう。

【認定に必要な書類】

認定届、規約、役員名簿、組織図、地域まちづくり計画、事業計画、予算書、地域の将来像の共有に至る経過（設立準備の取組み記録）、活動範囲など

● 協働協定締結

設立総会を終え、組織の認定を受けたのち、地域コミュニティ協議会と志布志市は、まちづくりのパートナーとして協働に係る協定を締結し、協働による地域づくりを推進していきます。

地域コミュニティ協議会と志布志市が、対等な立場で、それぞれの役割を明確にし、お互いに協働意識や活動意欲を高め、地域の総意として策定された「地域まちづくり計画」に基づき、地域の将来像を共有しながら、協働による地域づくりに取り組むことを対外的に示すものです。



潤ヶ野地区での「設立総会」の様子

ステップ4 協議会の運営を開始しましょう

設立総会が終わり、総会で承認を得た事業計画を、着実に進めていきます。

● 活動資金の確保

設立総会が終わりましたら、さっそく会費を集め、活動促進事業交付金の申請手続きを行い、必要となる活動資金を確保しましょう。

地域コミュニティ協議会として新たに自主財源確保の検討や地域課題解決の試行に取り組む場合は、掛かる費用に対し協議会創生支援事業補助金を申請することができます。

協議会創生支援事業補助金

地域コミュニティ協議会が、組織の創成期に実施するコミュニティビジネスなどの自主財源の確保や、買い物支援や見守り支援など地域課題解決を試験的に実施する際の経費などを助成します。

助成額は、組織化を図る区域内的の世帯数に応じ、500世帯未満は15万円まで、500世帯から1,000世帯未満は20万円まで、1,000世帯以上は25万円までとします。

2月末までに実績を報告していただく必要があります。

● 事業計画の進捗管理

事業計画に掲載された各事業を、実施主体が責任を持って、実施予定月を参考にしながら進めましょう。